

中施策評価書

作成日 令和06年 6月 20日

中施策事業名	防犯啓発事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	川島康孝
①めざすまちの姿	03 まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない		
②大施策	明るく、地域の防犯活動が活発で犯罪が少ないまちをつくる		
③中施策	市民の防犯意識の向上を図る		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	防犯意識の向上が図られている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 防犯の啓発 ・ 功労者表彰 ・ 市防犯協会		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
防犯教室の実施回数	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	23	23	23	23	0	0
	実績値	6	17				
単位	回						
	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和04年度	令和05年度	令和06年度
① 総事業費 (a+b)				147千円	419千円	
	a 事業費合計			147千円	419千円	333千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)			0千円	0千円
③ コスト (①－②)			147千円	419千円		
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				2 円	6 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価B 自転車盗難防止の一環として、警察や駐輪場の管理者と連携したツーロックの啓発を実施した。また、年度途中から頻繁に発生した特殊詐欺被害を未然に防止するために、愛知警察署、長寿課と連携して、高齢者向けの防犯教室をした。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	自転車盗難や、詐欺等特殊詐欺被害は、引き続き発生しているため、発生件数が多い地域、多い世代、手口等を警察と連携して分析し、防犯教室等による予防能力の向上を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	老人クラブや地域サロンを活用した防犯教室を引き続き実施するとともに、高校生等社会に出る前の住民に対しても予防能力の向上を図る。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和06年 12月 12日

中施策事業名	自主防犯活動支援事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	川島康孝
①めざすまちの姿	03 まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない		
②大施策	明るく、地域の防犯活動が活発で犯罪が少ないまちをつくる		
③中施策	地域の自発的な防犯活動を推進する		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	積極的に防犯活動を行っている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 防犯ボランティア ・ 防犯モデル地区 ・ 安全ステーション		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
自主防犯ボランティア団体数	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	71	71	71	71	0	0
	実績値	69	65				
単位	団体						
	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和04年度	令和05年度	令和06年度
① 総事業費 (a+b)				3, 071千円	2, 607千円	
	a 事業費合計			3, 071千円	2, 607千円	2, 504千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				3, 071千円	2, 607千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				45 円	38 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価B 自主防犯団体に所属する方の高齢化、加入者不足等により、やむを得ず解散する団体もあり、団体数の減少が見受けられた。 通常の自主防犯活動で使用する物品の提供及びながら見守り等新しい自主防犯対策に必要な資材の提供を進められた。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	自主防犯団体設立にあたっての手続き支援等を強化し、設立しやすい環境を整える。 また、自主防犯団体が解散を検討する際には、同一地区内の類似団体を統合する等の代替案を提示し、団体数が減少したとしても、地域の防犯能力が維持されるよう支援をする。 ながら見守りについては必要な物品提供を継続、自主防犯団体への支援では、団体の必要物品等ニーズを把握し、活動を継続的に実施できる環境を整える。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	引続き、ながら見守りに必要な物品を調査、提供し、防犯活動への支援を実施する。また、防犯活動の担い手育成についても、団体と協力して進めていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和06年 6月 20日

中施策事業名	防犯対策事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	川島康孝
①めざすまちの姿	03 まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない		
②大施策	明るく、地域の防犯活動が活発で犯罪が少ないまちをつくる		
③中施策	明るく死角が少ない街をつくる		
④中施策事業の対象	・ 市民 ・ 市内で遊ぶ子ども		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民が安心して生活でき、子どもが外で安全に遊んでいる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 防犯設備の設置補助 ・ 地域安全監視員 ・ 愛知地区防犯協会連合会		

■評価指標

中 ・ 長 期 成 果 に 対 す る 目 標 達 成 状 況							
防犯灯のLED化補助台数	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	300	300	100	100	0	0
	実績値	77	55				
単位	台						
防犯カメラ設置台数	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	10	10	10	10	0	0
	実績値	12	14				
単位	台						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和04年度	令和05年度	令和06年度
① 総事業費 (a+b)				14, 582千円	15, 713千円	
	a 事業費合計			14, 582千円	15, 713千円	9, 649千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				14, 582千円	15, 713千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				212 円	228 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体に関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価B 防犯灯のLED化率が高い水準にあるため、蛍光灯から切り替えは鈍化傾向にある中、区画整理等に伴う住宅環境の変化により、新規防犯灯の設置が見られた。今後も同様の理由により、設置が必要な個所が増えると思われるため、地区と共に、ニーズの分析、設置の促進を進める必要がある。 防犯カメラは、市内3駅周辺の設置がおおむね完了し、また、防犯意識の向上から、地区でも設置が伸びている。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	防犯灯、防犯カメラ設置費に対し交付される県補助を活用し、各地区の通学路や事故の多い箇所への設置を促し、地域防犯力の向上、犯罪の抑制を進める。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	現在、リース契約により設置している防犯灯のリースが完了し、各地域へ移管されるが、10年が経過し、更新を迎える可能性があるため、補助金の拡充等対応できるようにする。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 防犯対策事業	内容、理由、時期等 防犯カメラの設置の拡充を図るため、区、町内会の実情に合わせた運用ルールを明確化し、各区1機の原則を2機に倍増すること。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和06年 6月 20日

中施策事業名	交通安全推進事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	川島康孝
①めざすまちの姿	07 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる		
②大施策	利用者が安心して通行できる道路環境をつくる		
③中施策	交通ルールの理解と遵守を促進する		
④中施策事業の対象	市内在住・在勤・在学者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	交通ルールの遵守		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・交通安全運動 ・交通安全の啓発 ・交通安全施設・規制等の要望		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
交通安全教室の開催回数	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	33	33	33	33	0	0
	実績値	19	18				
単位	回						
	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和04年度	令和05年度	令和06年度
① 総事業費 (a+b)				12, 338千円	10, 991千円	
	a 事業費合計			12, 338千円	10, 991千円	13, 866千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				12, 338千円	10, 991千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				179 円	160 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価B 交通安全教室開催数はおおむね横ばいであったが、交通事故発生件数は前年比微増であった。 令和5年度より自転車乗車用ヘルメットの着用が努力義務化され、教育機関との協力や、企業向けに制度や補助金の周知に努めた結果、補助金の利用者が増加した。しかし、いまだ高校生、大学生、また、外国人労働者の未着用者は多いため、今後も継続した取り組みが必要となる。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	自転車乗車用ヘルメットの着用促進を進めるにあたり、高校生、外国人の着用率が低い傾向にあるため、法制度、補助金制度の周知を図り、交通安全意識の向上を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	交通事故発生場所や時間帯の傾向を警察等関係機関と共有、分析し、場所や時間に適した啓発活動の実施や、ヘルメットの着用による被害軽減の効果を住民の皆さんに実感してもらえるような交通教室の実施を進める。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和06年 12月 12日

中施策事業名	自転車対策事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	川島康孝
①めざすまちの姿	07 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる		
②大施策	利用者が安心して通行できる道路環境をつくる		
③中施策	利用者が安全で安心して通行できるように道路を整備・管理する		
④中施策事業の対象	市内を自転車利用する人		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	自転車を放置していない		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・駐輪場の管理・運営 ・自転車駐輪対策 ・放置自転車		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
撤去台数	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	450	450	450	450	0	0
	実績値	435	66				
単位	台						
駐輪場の不足台数	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	190	190	190	190	190	190
	実績値	0	0				
単位	台						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和04年度	令和05年度	令和06年度
① 総事業費 (a+b)				103, 723千円	8, 008千円	
	a 事業費合計			103, 723千円	8, 008千円	3, 562千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
	② 補助金等（収入）				0千円	0千円
③ コスト（①－②）				103, 723千円	8, 008千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				1, 507 円	116 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体に関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価 A 公益財団法人自転車駐車場整備センターとの協定締結に基づく新しい駐輪場運営により、駐輪場不足の解消、放置自転車の撤去台数は減少傾向にある。しかし、人の移動が多い時期は特に自転車の放置が見受けられる。 教育機関や、企業等と連携し、適正な駐輪、盗難防止の啓発を継続して進めていく必要がある。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	放置自転車は減少傾向にあるものの、少なからず発生している。放置自転車撤去の仕組みづくり、その利活用、自転車放置禁止区域の範囲などについて、継続して、自転車駐車場整備センターと協議していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	発生した放置自転車に対し、他部署や関係機関等と協議し、再利用等効果的な利活用について検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和06年 12月 12日

中施策事業名	災害対策事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	川島 康孝
①めざすまちの姿	18 災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている		
②大施策	災害時に行政と民間、地域、近隣市町村と連携する		
③中施策	普段から各機関との連絡調整がとれる体制をつくる		
④中施策事業の対象	近隣自治体、遠方自治体、民間企業		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	平時から情報交換等により顔の見える関係を構築し、災害時に迅速な対応ができる関係となっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・災害対策本部、非常配備 ・避難所 ・防災行政無線等機器 ・防災資機材 ・地域 防災計画 ・防災会議、地域防災対策推進会議 ・国庫、県費の補助金（防災関係） ・国民保護計画 ・災害時要援護者支援、ボランティアセンター ・防災協定		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
締結した災害協定 数（年間）	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	3	3	3	3	3	0
	実績値	1	3				
単位	数						
	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和04年度	令和05年度	令和06年度
① 総事業費 (a+b)				97,512千円	31,264千円	
人 件 費	a 事業費合計			97,512千円	31,264千円	33,499千円
	正規職員	人数	0 人	0 人		
		b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				97,512千円	31,264千円	
市民一人あたりコスト (③÷市の人口(評価対象年度末時点))				1,417 円	454 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価A 評価指標については目標を達成できたが、まちづくり指標「災害時に備えて行政・民間の情報共有ができていると思う市民の割合」が下がっているため、訓練や啓発活動を通じて周知を徹底していく。 コストについては、訓練を通して発見された課題を元に避難所の生活環境を改善を目的に導入資機材等の見直しを行っており、昨年度に比較して増加している。同法無線施設を使用した災害訓練については、継続して行うことで住民への啓発や防災意識の高揚を図っていく必要がある。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	災害協定については、継続して新たなパートナーを探し、協力関係が築けるような活動を続けていく。また、有事の際の協定であるため、協定締結先との連絡先の確認を継続していく。その上で、協定に基づいた訓練を実施し、協力関係を強めていく。 前年度からの継続事業として、LEDバルーン投光器の導入を進めていく。加えて、現在所有している資機材の見直しや更新を行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	現在協定を結んでいる企業、団体との情報伝達訓練等の訓練を実施していく。同法無線施設や移動系行政無線を使用した防災訓練を実施し、地域住民への啓発や防災意識の高揚を図っていく。その上で、洗い出された課題について検証し、次回の訓練に活かしていく。また、古くなった資機材の見直しや更新を行っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 災害時情報伝達基盤整備事業	内容、理由、時期等 移動系行政無線（MCA無線）の2029年に廃止に伴い、公共安全モバイルサービスを用いた伝達手段を整備
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) ペットの同行・同伴避難事業	内容、理由、時期等 ペット同行避難者の受入れに使用する資機材の配備
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和06年 6月 20日

中施策事業名	消防水利設置・維持管理事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	川島 康孝
①めざすまちの姿	18 災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている		
②大施策	災害時に行政と民間、地域、近隣市町村と連携する		
③中施策	普段から各機関との連絡調整がとれる体制をつくる		
④中施策事業の対象	市内の市街地及びこれに類する地域		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	耐震性を有する防火水槽が整備されている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	- 立上り消火栓に関すること - 防火水槽の設置及び改修に関すること - 国庫補助金及び県費補助金に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
耐震性防火水槽整備数	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	78	80	80	80	0	0
	実績値	79	80				
単位	基						
	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和04年度	令和05年度	令和06年度
① 総事業費 (a+b)				8,644千円	5,739千円	
	a 事業費合計			8,644千円	5,739千円	11,366千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				8,644千円	5,739千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				126 円	83 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体に関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価 指標、コスト、各 項目評価の観点 からの分析	総合評価A 耐震性貯水槽を新たに 1 基設置した。
---	------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	今後は令和 7 年度に新たに 1 基耐震性貯水槽を設置予定である。今後は大規模な工業開発や住宅開発地への消防水利の設置に対応していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	防火水槽については、耐震基準、消防水利の基準を満たしていない古いものに対し、改修等の対応をしていく必要がある。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和06年 6月 20日

中施策事業名	消防団運営事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	川島 康孝
①めざすまちの姿	18 災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている		
②大施策	災害時に行政と民間、地域、近隣市町村と連携する		
③中施策	普段から各機関との連絡調整がとれる体制をつくる		
④中施策事業の対象	消防団員・区、町内会・関係団体		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	地域の中心となり、地域住民と相互に連携協力し、活動を行っている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・消防団員の退職報償金に関すること ・消防団員等の公務災害補償に関すること ・ 消防団式典に関すること ・消防団の各種行事に関すること ・消防団に対する警備依 頼に関すること ・消防団交付金に関すること ・消防団の組織運営に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
消防団活動回数(年間)	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	820	820	820	820	0	0
	実績値	710	557				
	単位	回					
	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和04年度	令和05年度	令和06年度
① 総事業費 (a+b)				79, 040千円	31, 659千円	
	a 事業費合計			79, 040千円	31, 659千円	37, 018千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等（収入）				0千円	0千円	108千円
③ コスト（①－②）				79, 040千円	31, 659千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				1, 149 円	460 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価B 令和5年度は新型コロナウイルスの影響がなくなり、市操法大会、県操法大会等の行事が開催され、充実した消防団活動を行うことができた。 また、令和4年度に全消防団車両の更新が完了したことで令和5年度のコストが減少した。車両の更新に伴い、資器材も更新され、令和4年度は頻繁に取り扱い訓練が行われたが、取り扱い方法も団員に熟知されつつあるため、令和5年度の訓練回数は減少した。 令和6年度以降はコロナ禍で淘汰された事業を復活させるのではなく、継続するか否かの検討も実施していく必要がある。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	団員に対し、資機材訓練、防災等の研修を行い技術、知識の向上を図り、消防団主導の活動ベースを作る。 これまでの行事の規模や回数を見直すことでコスト削減に繋がると共に、団員の確保に向けた有効な消防団PR活動を実施する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	操法訓練以外に車両に積載されている救助資機材を使用した訓練を実施する。また、消防団主導で地域の防災訓練等で住民への指導、講習を実施できるようにする。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和06年 6月 20日

中施策事業名	女性防火クラブ事務	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	川島 康孝
①めざすまちの姿	19 防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分できており、災害時には助け合うことができる		
②大施策	災害に備え、家庭と地域の準備と連携ができ、災害時には自発的に助け合えるよう支援する		
③中施策	災害に備えて家庭での準備を促す		
④中施策事業の対象	女性防火クラブ員		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	クラブ活動を通じ、家庭や地域からの火災を予防する		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	- 女性防火クラブの指導育成に関すること - 女性防火クラブ交付金事務に関すること - 女性防火クラブ半日体験に関すること - 女性防火クラブ研修に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
女性防火クラブ行事参加人数(年間)	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	300	300	300	300	0	0
	実績値	170	124				
単位	人						
	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和04年度	令和05年度	令和06年度
① 総事業費 (a+b)				973千円	939千円	
	a 事業費合計			973千円	939千円	980千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③ コスト（①－②）				973千円	939千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				14 円	14 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価B 令和5年度は、尾三消防本部豊明消防署と合同で火災予防の街頭広報を実施する等、防火広報に重点を置き活動した。クラブ員の高齢化等で支部の減少及びクラブ員の減少が進んでいるため、少数精鋭で行えるような事業内容及び活動方法の見直しを行う必要がある。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	地域の防災訓練等にも積極的に参加していけるように、活動内容を協議していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	クラブ員の積極的な事業参加の方法を検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和06年 6月 21日

中施策事業名	防災啓発事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	川島 康孝
①めざすまちの姿	19 防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分できており、災害時には助け合うことができる		
②大施策	災害に備え、家庭と地域の準備と連携ができ、災害時には自発的に助け合えるよう支援する		
③中施策	災害に備え家庭と地域の連携を促し、災害時の助け合いの意識を向上させる		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	災害時に地域を通してスムーズな連絡調整を行うことができ、消火活動や救出活動を迅速に行うことができる状態である		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 防災訓練 ・ 防災啓発 ・ 自主防災組織連合会 ・ 安心安全情報共有システム ・ 地区で開催される防災訓練 ・ 講話		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
地域で実施した防災訓練の数（年間）	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	46	46	46	46	46	0
	実績値	32	33				
単位	数						
家庭で防災対策をしている市民の割合（備蓄、避難所の確認など）※	事業実施年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度
	目標値	71.6	73.5	75.4	77.4	0	0
	実績値	62.5	57.9				
単位	%						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和04年度	令和05年度	令和06年度	
① 総事業費 (a+b)				6,380千円	7,957千円		
	a 事業費合計			6,380千円	7,957千円	9,064千円	
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)			6,380千円	7,957千円			
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				93 円	116 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価B (指標1) 令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響から回復しつつあったが、訓練を取り止めたままの地域がみられた。各地域で訓練を再開していただくために啓発を強化する必要がある。 (指標2) 家庭で防災対策をしている市民の割合は減少した。目標値を達成できていないため、広報や防災訓練を通じて、引き続き啓発を行う必要がある。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	区長会への議題提出や防災リーダー研修会などで、訓練の必要性を呼びかけ、各自主防災組織での訓練実施を呼びかけていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	当市では、大きな災害発生から時間が経過しており、地域によっては防災意識が希薄化しているように思われる。また、若い世帯の訓練参加者が少ないため、防災啓発の方法の強化を図っていく必要がある。 また、訓練の実施内容も前年の反省事項を反映され、より充実したものとしていく必要がある。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 若い世帯への啓発事業	内容、理由、時期等 若い世代を取りこむために、防災動画の作成や啓発の方法を強化していく。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 個別避難計画関連事業	内容、理由、時期等 令和3年から個別避難計画をおおむね5年で作成することが努力義務化されたため。
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等